

学校法人神奈川歯科大学開学100周年記念 シンポジウム開催報告 ～ 開催までの舞台裏 ～

人体構造学講座 肉眼解剖学・臨床解剖学分野 教授 高橋 常男

去る2月20日（土）大学大講堂において、「開学100周年記念シンポジウム」が、約650名の市民の皆様を迎えて開催されました。解剖学教室は実行部隊の中核として、企画から準備、開催に至る全てに携わらせていただきました。本紙面では、解剖学教室からみた記念シンポジウム開催までの舞台裏をお話させていただきます。成功裏で終えられたのは、関係各位が本学の歴史の重みを心底から受け止め、無欲・無償で結束ができたからだと思います。企画から開催当日まで、“100周年”という数字の重さとひととの出会いの大切さを改めて認識させて頂いた行事でもありました。

2010年が開学100周年の年と重なりましたことに特別な巡り合わせを感じておりました。日本古来の暦である干支でいいますと、2010年は「庚の寅（かのえのとら）」です。十干（じっかん；10年周期）の7番目になる「庚」は“続ける”という意味があり、草木が成長に伴って新たな形に変わることから、更新の「更」にも通じる意味があるようです。また「寅」は、収穫を敬けんな心で約束する姿を現す象形で、同じ姿勢を持つものは集まって助け合うことも意味しているようです。

私自身は、干支の持つ意義も踏まえまして2010年に、開学100周年記念シンポジウムが実現できれば、本学の更なる発展、結束、そして改革の年にふさわしい節目ともなりえるのではと思いました。が、皮肉なことに「歯科大学の9.11.事件」とも言える未曾有の不祥事が本学を襲いました。本学の教育・研究、地域医療への歴史的貢献の継続に暗雲を投げかける事件でした。起死回生、ピンチもチャンスとするような、なにか前向きな明るい医学情報を本学から地元住民に向けて発信し、それを継続できるような風を起こせないものか、

大学人なら誰しもが願っていたことと思います。

そのような矢先、解剖実習棟内「人体構造画像医科学資料館」の見学をしたいと、ジオジャパン（株）田島孝良社長が来室されました。企画開始の最初の偶然（ご縁）となります。私とは約15年ぶりの再会となります。同社は、解剖教材の輸入・販売の他、各種企画なども手がけており、今回のシンポジウムで第一部パネリストの先生方とも、釧路及び博多で2度のシンポジウム開催の実績があり、第3回目を思案中とのことでした。私共はまさに本学の再生・新生のひとつとして、地域住民と全国の同窓諸氏諸兄に向けて、底力を示したいと強い願いがありましたから、「医科・歯科学会から権威ある先生方をお迎えし、口腔と全身の健康をテーマにした市民向けの無料シンポジウム」と「大学大講堂を会場」として、すなわち三浦半島から全国に向けた情報発信をするという方針が、即決定しました。しかし、2009年は10月、第41回諸霊供養の会（合同解剖慰霊祭：解剖実習棟内の死因調査事務所での法医解剖体も含む）、そして第46回稲岡祭（父母会10周年記念）での海堂尊先生講演会（同窓会会報111号参照）など、解剖教室が関る大学行事が重なり、シンポジウムに意識を集中することができませんでした。さらに上記の2つの行事の間に湘南短期大学主催で小泉元首相による講演会が開催されました。本講演会では、学生・教職員・一般市民を含め約700名という記録的な動員を果たしておりますので、競う意味ではないのですが、私共の2月開催のシンポジウムでは、学生の参加が難しい時期でしたので、主として市民の皆様で、同様に会場をいっぱいにしたいと考えていました。

★翌日、教室員の考えも取り入れるべく相談の

結果、「口腔ケアとすこやか長寿の秘訣」についての座談会となれば、本学の存在と貢献が明確になることと、これに続いて三浦半島選出の代議士お二人（小泉・横糸氏）と、4市1町（横須賀・鎌倉・逗子・三浦・葉山）の首長を揃え「三浦半島から日本に向けた明るい未来を語る」というテーマで第二部の座談会を同時企画すれば、間違いなく市民の興味が得られるのではという結論に達しました。早速、関係各位に打診してみましたが、「面白いアイデアだがどれだけの首長が当日出席できるか甚だ疑問」というのが共通認識でした。政党の違い、各市町村が抱えている諸問題等、大講堂に一堂に会するには懸念材料があまりにも多いこと、また首長と議員が同席してシンポジウムを行うには違和感があるとまで、多様な意見を頂きました。でもここからが正念場のはじまり。時代は、日露戦争勝利の数年後、国家高揚の時代にあったとはいえ、日本で最初の女性歯科医養成学校の設立を思い立った大久保潜龍先生の勇氣、未来志向、歴史をもって先見の銘が証明されていますが、私共としては『鉄杵を針となす』強い意志で臨もうと結束しました。持ちうる「人脈」のフル活用に徹しました。幸い、横糸議員、横須賀市長、そして三浦市長とは、既に解剖関連で協力体制を築いており、「営利を目的としない市民向けの講演会」であれば必ず他の方もご賛同いただけるであろうという期待もありました。

★11月早々、ご臨席願ひ（案）を両議員事務所及び4市1町首長宛に郵送致しました。その5日後には各首長のもとへご説明に伺い、ほぼ前向きな回答をいただきました。特に葉山町の森町長は直々にご対応いただき、ご自身の手帳に既に予定を記入されていた上に、ご発言内容も用意されていたことには感動しました。翌週から、横須賀・三浦・逗子の各秘書から続々とご臨席快諾の電話が続き、横糸議員からも同様の連絡が入りました。唯一、鎌倉市長のみ公務が重なり残念ながら参加できないとのご連絡をいただくことになりましたが、この時点で、2部構成による歴史的なシンポジウム開催への可能性が高まってきました。順風

満帆に準備が進むと思われましたが、やはり高い壁にぶつかる事になります。

三浦半島選出の代議士である小泉進次郎氏のご臨席の回答がありません。小泉事務所からの当初の返事は、「保留」ということでした。不安を抱えたまま、同時進行でシンポジウムの輪郭（4時間番組）を描いていきました。解剖分野とご縁の強くあった数十社に及ぶ協賛企業・団体、後援団体のリストアップなど、打ち合わせ会議は大小合わせ延べ40回を超え、時には深夜に及ぶこともありました。この中で「一部・二部の間にマンドリンを奏でる」「出店を出しお祭りのな雰囲気をつくる」等のアイデアが出されました。通常業務を抱えながらのこの数ヶ月間は、当教室にとっても過去に類を見ない多忙な時期として記憶されることでしょう。時は瞬く間に過ぎ、師走も半ばに入り状況は加速度的に変化をみせます。

★大学当局が理事を実行委員長とした「100周年記念行事実行委員会」を立上げ、私共の企画は正式な大学行事として格上されました。さらに法人に計上していた予算も決済を頂きました。そしてAi（エーアイ）センター開設（同窓会会報111号参照）でご縁のあった公明党比例南関東ブロック選出の古屋範子衆議院議員からも、「是非出席したい」とのご連絡をいただき、さらにステージに華が添えられることになりました。多岐に渡る作業に追われる中、クリスマスも終わり、2009年も最後の週となります。

★もう一つの問題は、シンポジウムを仕切る司会者の選任です。第一部はパネリストの中から選任するということが方針が決まっておりましたが、第二部の司会者は未定の状態です。発言者の魅力を最大限に引出し、意見を折衷させ、なおかつ観衆を惹きつける話術のある人、できる限り地元から人選するなどの条件を満たす必要がありました。幾人もの名前をリストアップしたのですが、限られた時間内では精査できず人選に窮していました。すると私の中学・高校時代の同級生から新年会の日程調整の問い合わせがあり、私はすぐ同級生の一人の顔が浮かびました。久里浜行政セン

ター館長の山田良正さん、そして湘南ビーチFMパーソナリティ普道はるみさんに行き着きました。お二人が適任であったことは当日の盛り上がりで証明しております。

★実は、年末、司会者らと一部・二部シンポジウムの台本作りの打ち合わせに使用した場所は、私自身が1年以上も足を運んでいなかった市内の小料理屋でした。そこに偶然、小泉事務所の秘書とお仲間、また奥には地元の有力者ら、そして私共はその中間の席に予約されていたのです。

そこで私は、「西洋文化の幕開けが三浦半島からスタートしたことや、三浦半島全地域がひとつになって、医療特区として高齢者医療のモデル地区となるような、明るい展望ある情報をシンポジウムから情報発信したい」という企画主旨を皆様の前で熱く語ることができました。

新年の幕開けです。1月も中盤に差し掛かっているのに最終ポスター・チラシ・抄録も制作できていません。小泉氏からのご臨席については、まだ回答を得られていません。

最悪のシナリオも想定しながらポスター・チラシ・抄録を制作するという苦渋の選択を迫られる状況になりました。

そして、タイムリミットという日の朝一番、一本の電話で数ヶ月に及ぶ憂慮から開放されました。小泉事務所からのご臨席受諾の電話でした。その時の感動は、一生私の脳裏から離れることはないでしょう。「小泉氏の会終了までオーケー」とのご返事には実行委員のみならず、大学当局も安堵いたしました。

★シンポジウム開催まで約1ヶ月、神奈川新聞社からは「これだけのパネリストを揃えるのも前代未聞ですが1ヵ月前からの告知も前代未聞ですね」との言葉が物語るように、1ヶ月前の告知で会場を一杯に埋めるのは容易ではありません。実行委員会では、多岐に渡る告知作業を行いましたし、私自身も市内の知り合いという知り合いに直接ポスターやチラシを配布、ご来場を呼びかけしました。実は、開催間際でもうひとつの心配ごとが発生していました。当日配布するパンフレット

(抄録)の印刷です。印刷所からパンフレットに掲載する抄録の最終校正原稿が1週間を切ると、仕上がりが当日ぎりぎりか、最悪の場合は印刷が間に合わないという連絡がきました。真っ青です。その夕刻には覚悟を決め、東京の印刷所から横須賀地元の印刷所に急遽変更するという決断をしました。お陰でパンフレットはシンポジウム開催の2日前に完成し、本当に胸をなでおろしました。改めて、無理難題も聞き入れて頂いた地元(市民)との信頼関係の重要性を強く感じました。

★当日は、穏やかな天候に恵まれ、昼頃にはポスター背景に使用した戦艦三笠の上にはコントラストよくいくつかの雲が浮かんでいます。本学の母体が創立された時代までさかのぼって、まさに“坂の上の雲”をみて、母校、神奈川歯科大学の明るい未来を想像しました。

そして遂に、第二部の始まりです。パネリストらがバックステージに控え、身なりを整えているひと、最後のメモ書きをとるひと、各位様々な緊張のなか、司会者から登壇のアナウンスが聞こえてきました。首長、代議士と順番に紹介されるなか、ほんの一瞬ですが、様々な思いが走馬燈のように巡ってきました。私は最後の登壇。ステージから観衆で埋め尽くされた会場をみた際の感動は言葉では表現できません。隣には3市1町の首長、古屋議員、横糸議員、そして小泉議員も笑っております。お声掛けいたしました議員と全首長がステージにおられます。

「100周年記念シンポジウム」は、100周年記念行事実行委員会、ジオジャパン(株)をはじめ、多くの方々の英知と努力で成功を取めました。あらためて本学新生の一里塚となることを願っています。来る6月23日(水)には、横須賀芸術劇場(18時開演)で、「学校法人開学100周年記念式典」が控えております。本式典に先立って、実行委員会のひとりとして、過日の記念行事のご報告ができますことを心から感謝しております。第一部パネリストとして本学から、歯周病学分野 出口眞二教授、微生物学分野 浜田信城教授にご協力を頂きましたことを御礼申し上げます。

最後に、同窓会大館満会長には、準備段階から何度もお相談をさせて頂き、ご指導・ご鞭撻を賜りました。私自身、企画準備に際し、私自身も先が読めないこともあって説明不足の点が多々ありましたにも拘わらず、本部同窓会・支部同窓会・父母会からはご寄付を賜りました。お陰をもちまして、赤字を出すことなく終わられました。また協賛企業・協賛団体・後援団体の皆様には、ご理解とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

シンポジウムの模様につきましては、大学HPと、「神奈川歯科大学新聞第二号」でご覧になれます。新聞と開催当日に配布致しました「パンフレット（抄録）」がありますので（数に限りあり）ご希望の方にはご郵送させていただきます。

（抄録の表表紙には3D画像を組み込みました。何がみえるのか試してみてください。裏表紙は、三浦半島の3市1町の地図とその輪の中で家族が世代を越えて、職域を越えて、地域の市町境を越えてひとのこころの連携による新たな展望と、学校法人神奈川歯科大学に拘わるすべてのひとのこころとこころの連携によって実現する明るい未来を重ねてレイアウトしました）



左から司会の山田良正氏、司会の晋道はるみ氏、高橋常男、小泉進次郎議員、横条勝仁議員、古屋範子議員

学校法人神奈川歯科大学開学100周年記念シンポジウム（東京女子歯科大学講習所創立以来）

日時：平成22年2月20日（土）13：00～17：00 開場12：00

場所：神奈川歯科大学 大講堂（入場無料）事前申込制 先着順（定員に達し次第締切）

◆挨拶◆久保田 英朗 神奈川歯科大学 学長

第一部（座談会）「“すこやか”に生きるための健康長寿の秘訣」

◆座 長◆森真 由美 東京都保健医療公社多摩北部医療センター 前院長・顧問

◆基調講演◆折茂 肇 健康科学大学 学長（東京都老人医療センター名誉院長・元東京大学医学部教授）

島田 馨 総務省人事・恩給局 顧問医（元東京大学医科学研究所教授・付属病院長）

嶋田 裕之 微研病理研究所 名誉所長（元東京医科大学主任教授）

齋藤 孝次 釧路孝仁会記念病院 理事長

出口 眞二 神奈川歯科大学歯周病学分野 教授

浜田 信城 神奈川歯科大学微生物学分野 教授

◆トピック講演◆「感染症のとらえ方、常識・非常識」

倉田 毅 富山県衛生研究所 所長（前国立感染症研究所所長）

・・・休憩・・・マンドリンミニコンサート（横須賀マンドリンアンサンブル）・・・

第二部（座談会）「三浦半島の明るい未来を語る-健康の立場から-」

◆提 言◆高橋 常男 神奈川歯科大学 解剖学分野 教授

◆司 会◆山田 良正 よこすか未来塾（久里浜行政センター館長） 晋道 はるみ（湘南ビーチFMパーソナリティー）

◆パネリスト◆ 小泉 進次郎 衆議院議員・横条 勝仁 衆議院議員・古屋 範子 衆議院議員

吉田 雄人 横須賀市長・平井 竜一 逗子市長・吉田 英男 三浦市長・森 英二 葉山町長

主催：学校法人神奈川歯科大学

後援：神奈川県立保健福祉大学/桐蔭横浜大学/横須賀市/逗子市/三浦市/葉山町/神奈川県歯科医師会/横須賀市歯科医師会/横須賀市医師会/テレビ神奈川/朝日新聞社横浜総局/神奈川新聞社/神奈川歯科大学同窓会/神奈川歯科大学父母会

企画：ジオジャパン株式会社